



こんにちは

村田 けい子です

2019.5.24
No. 203

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。090-9144-8534
発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

「おもてなし」の心で、新しい特産品、お披露目！

—5.22 令和元年度 立科町商工会総会開かれる—



副町長、議員に加え、5人の県議前・現職全員が参加する総会となりました。商工会会員41人、委任状109人、来賓32人という構成でしたが、第2部の懇親会では、立科町の特産品をずらりと並べ、初めての味に舌鼓を打ちました。

陣内マス釣り場を経営する「歩・歩・歩(サンポ)」より、ニジマス料理の数々が出品されました。おなじみのニジマスの唐揚げだけでなく、『お造り』『山椒煮』『味噌漬けしたもの』を焼いたもの『粕漬けニジマスの焼き物』『フライ』『甘酢アンカケ』『ヤマメやイワナの甘塩』も出展されていました。

ニジマスがこんなに多彩な調理法で提供できるなんて、とても驚き、感動しました。



味噌漬け味

刺身



サンショウ煮



クルミの入ったちから餅

塩菓堂さんはクルミを練り込んだ「三国一のちから餅」をひと箱提供、池の平ホテルからは地ビール「白樺・蓼科山」2種類、中村さんからは白ワイン、コンフィチュール。佐研フーズさんからは試食用に食パンと多くの種類のジャムが用意されていました。ブルーベリー・ラズベリー・桑の実ジャム、変わったところで味噌味のジャム、もちろんリンゴジャム、なつめジャムもありました。参加者は、小さく切られたパンにいろんなジャムを塗って味を確かめていました。

まずは、会員同士と来賓に「こんな商品があること」を知ってもらい、販売につなげる。この取り組みそのものが、商工会の販売促進会のようなものでした。

様々な機会をとらえて、会員の御商売の紹介や開発した特産品の紹介をすることは、とても良いことです。会員だけでなく、町民もあまり知らないことも多いので、今後もどしどし試食会と販売の機会を設けるべきと思います。タテシナップルからは『林檎美人』というビタミンドリンクのお土産がありました。「これは効くよ！」と利用者の声もあり、なかなかおいしく飲みました。

商工会が、「立科町の特色を活かし、農、商、公、官、学、金、観光連携を基本に活動」してきたことが、多彩な報告で明らかとなりました。商工会が中心となり、中山道全国宿場会議を芦田宿で開催、商工祭、姉妹都市との経済交流、肉祭り、ソバ祭り、タテシナソン、観郷ウォーク、そしてユーユー立科での都市との交流事業など、町の活気を生み出す原動力になっていると思いました。

商工会ではまちづくり委員会など4つの委員会で経営相談や金融のあっせんも行っています。自動車部会・特産品振興部会・観光部会など6つの部会、女性部・青年部も地域の活性化・絆づくりに役立っています。



日本桜草
沿道に自生

今週の
パチリ

白樺高原から下って来ると、左側に紅い灯がともったような花が目に入り、車を止めてみてみました。日本桜草があちこちに群生しているのです。

白樺高原の気候にあっていられるのでしょうか。転々と続いています。こうした山野草を増やして高原を訪れる人が呼び込めればいいですね。

「地域農業・経済の発展は食と農を守ることから

小松泰信氏



5.22日本共産党主催 議員研修会で

大いに語る (長野県農協地域開発機構 研究所長)

岡山大学の教授であり、日本農業新聞などで、現在の農政を憂い、「農は国の基」という考え方に立脚し、広く国民に理解を求めるとともに、農業を基幹産業と位置付ける政治勢力と連帯することで、農業・農家・農村、そして農協という“農ある世界”を断固守り抜こうと訴えた小松さん。

歯切れの良い語り口で、90分の講演があったという間に過ぎました。



「隠れ共産党宣言」はぜひ多くの農民の方。JA関係者に読んでほしい。」小松泰信氏

現在の肩書である一般社団法人長野県農協地域開発機構研究所という研究所は、長野県JAが24億円を集めて、農業をめぐる諸問題に対応するためのもので、まずこうした研究所をつくった「長野県野JAの見識の高さに敬意を表する」との発言がありました。

食料主権を確立すること

自国の食料・農業政策を決定する権利(国民主権) + 多国籍企業や大国の横暴を規制する国家主権

現在のわが国の自給率は38%であり、成人に必要な一日のカロリーは2400kcal/日。その内、自給分は約1,000kcalであり、残りの1,500Kcalは輸入に頼っている。眠っていても必要なカロリー(基礎代謝)は1,300~1,400Kcal。基礎代謝も賄えないのに、食料の輸出に力を入れているが、ちょっと違うのではないかと指摘。「食料自給率や食料自給力の向上が喫緊の課題であり、輸出の優先順位はそれ以下である。」との指摘は、「言われればその通り」でした。

地域に根差した経済への転換は農業・農村の持つ多面的機能の再評価から

今、世界的に「持続可能な開発目標」という理念が共有されています。資本主義の利益最優先「今だけ、金だけ、自分だけ」の資本主義がグローバル化し、農地の荒廃や農薬による汚染、水資源の枯渇、温暖化など地球環境を脅かしています。「ひたすら成長をめざしてきたグローバル化の時代は終わりつつある」として、これからは「地域に根差した経済への転換」具体的には「農業を核に、食料、エネルギー、人材、水、森林などの地域資源をフル活用し、域内だけで完結させる持続可能な経済の構築」の道が目指すべき方向と話されました。私にはなかなか難しく、もっと勉強しなければと思いました。

TPPに反対しているJA中央会が「自民党の候補者を応援していいのか」

この話はとてもよく分かりました。TPPや日米FTA、EPAなど、関税を無くして農産物の輸入自由化を促進し、国内農業を危機に陥れる政党・政治家を支持・応援する今のJA、全く情けない限りだと思っていたので、同じように小松先生が喝破され、「わが意を得たり」の思いでした。

特に多国籍企業が国家を訴えることができるISDS条項は、資本主義の世界的完成形で、企業の利益が国家の利益よりも上に置かれるという究極の売国条項です。こんな条約TPPを批准するなど、どんな神経をしているのか、と本当に腹立たしく、情けない限りです。こんな売国的な安倍政権は退陣させなければなりません。

お知らせ 1

5/26(日) 1:30~ 無料

「国保問題 学習会」

佐久情報センター大会議室

高すぎる国保税をどうしたら引き下げることができるの、国保制度の解説も含めて学習します。どなたでもご参加できます。

お申し込みは村田(56)2868

090-9144-8534

お知らせ 2

5/31(金) 1:30~ 無料

DVD視聴会

「速報 辺野古2018」

望月 だろのき文庫

どなたでもご参加できます。

お申し込みは村田

(56)2868

090-9144-8534



アケビの花

